

フレームワークの概要とセカンドオピニオン 三菱 UFJ リース グリーンボンド

評価の概要

サステイナリティクスは、三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークには透明性があり、有意義なインパクトを生み出し、グリーンボンド原則 2017 にも合致しているとのオピニオンを表明します。サステイナリティクスが主に考慮したのは以下の要素です。



調達資金の使途三菱 UFJ リースのグリーンボンドの適格クライテリアである再生可能エネルギーは、ICMA のグリーンボンド原則において環境改善効果を生み出すプロジェクトとして認められています。



プロジェクトの評価と選定プロジェクトの評価と選定は、環境・エネルギー事業部門が適格クライテリアへの適合性を考慮して行います。これはマーケット・プラクティスに沿った方法です。



調達資金の管理財務部は四半期に 1 度、内部の管理ファイルを使って全適格グリーンプロジェクトの予算と実支出をチェックします。これはマーケット・プラクティスに合致しています。



レポートイング三菱 UFJ リースは、適格グリーンプロジェクトによる発電量に加えて CO2 排出量の削減量をインパクトの指標として公表すると約束しており、これはマーケット・プラクティスに合致しています。

評価年月日	2018 年 4 月 2 日
発行体所在地	日本

本レポートのセクション

はじめに.....	2
発行体概要.....	2
フレームワークの概要.....	3
サステイナリティクスのオピニオン.....	6
参考資料.....	9

お問い合わせは下記プロジェクトチームまで:

Trisha Taneja (トロント)
Senior Associate, Advisory Services
trisha.taneja@sustainalytics.com
(+1) 647 317 3695

Wakako Mizuta (東京)
Associate, Advisory Services
wakako.mizuta@sustainalytics.com
(+81) 3 4510 7979

はじめに

三菱 UFJ リースでは、グリーンボンドを発行しその調達資金によって日本国内での既存太陽光発電プロジェクトに対する融資事業のリファイナンスを行うことを目的として、グリーンボンドフレームワークを策定しました。三菱 UFJ リースは、サステナリティクスとの間で、サステナリティクスが三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークとその環境面での貢献についてセカンドオピニオンを提供する委託契約を締結しています。サステナリティクスは、この委託契約の一環として、三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークについて事業プロセスと調達資金の予定用途によるサステナビリティ(環境持続可能性)への影響、さらに調達資金の管理とレポートングを理解するため、三菱 UFJ リースのプロジェクトチームの各メンバーと対話を実施しました。またサステナリティクスは、関連する公表文書と非公表の社内情報の審査を行っています。本委託契約により、当該グリーンボンドフレームワークが ICMA のグリーンボンド原則 2017 にて期待される情報開示水準に合致することが確認されました。

本意見書は、フレームワークの概要(三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークの概要)と、サステナリティクスのオピニオン(当該フレームワークに対する意見)の 2 部により構成されています。

発行体概要

三菱 UFJ リースは 1971 年にダイヤモンドリース株式会社として創業、2007 年に UFJ セントラルリース株式会社との合併により現社名となりました。日本、アジア、北米、欧州の各地にオフィス・子会社・関連会社を展開し、グループネットワークを通じて、リース・ファイナンス事業のみならず中古売買やアセットマネジメントなどのサービス事業に積極的に取り組んでいます。同社は三菱 UFJ フィナンシャルグループの傘下であり、東京に本社を置いています。

同社はその経営理念の中で、環境を中核的価値のひとつと定め、「環境に配慮した企業活動を通じ、地域・社会の発展に貢献」することを目指しています¹。さらに経営理念に沿う形で「環境方針」を定め、「リース事業を通じて経済的目標を達成するとともに、全ての事業活動において環境保全を推進する」としています²。

さらに三菱 UFJ リースでは 2017 年度から 3 年間の中期経営計画を策定し、金融と事業の融合を通じた社会的課題の解決と収益率向上を目指しています³。同社は本経営計画の重点産業分野として、環境・エネルギー事業において 4 つを重点分野として、i) 太陽光発電分野のエクイティ事業強化、ii) バイオマス／風力等再生可能エネルギー分野への事業参画、iii) エネルギー事業者を対象としたオペレーティングビジネスとアセットマネジメントの拡大、iv) 環境・エネルギー関連の社会的課題解決とサステナビリティ貢献のための太陽光発電へのファンドビジネスに取り組んでいます。

三菱 UFJ リースはこれまでも、環境配慮型商品として風力発電・太陽光発電設備など各種再生可能エネルギー・プロジェクトへのファイナンスを行ってきました。環境保全への取り組みをさらに強化し、中期経営計画に述べられた環境関連ビジネスに貢献するため、グリーンボンド発行を計画しています。

¹ 三菱 UFJ リース 経営理念／企業理念 (和文) : <http://www.lf.mufg.jp/corporate/idea/index.html>

² 三菱 UFJ リース 環境方針 (和文) : https://www.lf.mufg.jp/corporate/csr/environment_top.html

³ 三菱 UFJ リース 新中期経営計画 “Breakthrough for the Next Decade ” (和文) : http://www.lf.mufg.jp/investors/library/pressrelease/20170515_3.pdf

フレームワークの概要

三菱 UFJ リースではグリーンボンド発行のために以下のフレームワークを策定しました。これはグリーンボンド原則 (GBP) の 4 つの柱、すなわち調達資金の使途、プロジェクトの評価及び選定のプロセス、調達資金の管理、レポートニングに対応したものです。

3.1 調達資金の使途

グリーンボンドで調達された資金は、太陽光発電プロジェクトへの投資資金で、かつ下記の適格クライテリアに適合した融資事業のリファイナンスに充当される予定です。この適格クライテリアは、対象プロジェクトに関連する環境及び社会的リスクを低減できるように、三菱 UFJ リースが同社の内部審査基準に従って定めたものです。

3.1.1 適格クライテリア

1. 再生可能エネルギー - 太陽光発電

本グリーンボンドの調達資金によるファイナンスの対象となるためには、プロジェクトが以下の適格クライテリアすべてを満たすことが求められます。

- I. 支出が日本国内の太陽光発電設備の開発、建設、運用に関連したものであること。
- II. クライアント(発電事業者)が、当該設備の建設および設置に伴って適用される環境アセスメントや森林法など関連法令を遵守することについて、契約書上で表明していること。(適用されるものに限る)
- III. クライアント(発電事業者)が当該設備の建設および設置に先立って地元住民への説明を行い、理解を得ていること。
- IV. プロジェクトへの融資が、グリーンボンドの発行日から遡って 24 か月以内に実施されたものであること。

3.2 プロジェクトの評価及び選定のプロセス

プロジェクト選定における適格/除外クライテリアの適用

調達資金を利用したリファイナンスの対象となるプロジェクトは、三菱 UFJ リースの営業部門および環境・エネルギー事業部門の各担当者により財務的評価を実施し、プロジェクトの金額に応じて部長から取締役会までの承認者が最終決定を下しています。プロジェクトは今後、環境・エネルギー事業部門によって適格クライテリアへの適合を検討し、評価と選定が行われる予定です。

サステナビリティ目標

三菱 UFJ リースではその経営理念に沿って、4 つの柱から構成される「環境方針」、1) リース事業を通じて経済的目標を達成するとともに、全ての事業活動において環境保全を推進する、2) 環境目標の設定・見直しを通じて環境パフォーマンスを向上させる、3) 省資源、省エネルギー、廃棄物の低減によって汚染を予防し、リース終了物件処理において廃棄物の減量化、資源リサイクル及びリユースを推進する、4) 関連する法規制及びその他の要求事項を遵守することを定めています⁴。この方針を実現するため、同社では再生可能エネルギー・ファイナンス、Energy Service Company (ESCO)事業、中古機器の売買、カーボン・オフセット・プログラム等の環境関連の商品・サービスを提供しています。さらに三菱 UFJ リースでは 2017 年度から 3 年間の中期経営計画を策定しております。同社はこの経営計画の重点産業分野として、i) 太陽光発電分野のエクイティ事業強化、ii) バイオマス/風力等再生可能エネルギー分野への事業参画、iii) アセットマネジメント及びファンドビジネスの拡大、iv) エネルギー・サービスを中心とした事業展開の強化の 4 項目を実現しつつ環境・エネルギー事業の拡大に取り組んでいます。三菱 UFJ リースは

⁴ 三菱 UFJ リース 環境方針 (和文) : http://www.lf.mufj.jp/corporate/csr/environment_top.html

また再生可能エネルギー・プロジェクトへの投資をはじめとする環境・エネルギー事業に注力⁵、これによって経済的目標を達成しながら環境及び社会的問題の解決に貢献しようとしています。

環境リスク、社会的リスク低減のためのプロセス

三菱 UFJ リースには、財務的リスク、非財務的リスクを評価しプロジェクトの有効性を確認するための内部プロセスがあります。三菱 UFJ リースはこのプロセスの一環として、融資対象設備が環境影アセスメントを法令で義務づけられている場合にはその対応を行っていること、また、クライアント(発電事業者)が、プロジェクト開発について地元住民への説明を行い、理解を得ていることを契約書によって確認します。この段階はセクション 3.1.1. に記載のとおり、プロジェクト選定のための適格クライテリアに組み込まれています。

上記に加えて三菱 UFJ リースは、クライアント(発電事業者)が関連する法令に従うことを契約書によって確認します。クライアント(発電事業者)が従うべき法令には、環境及び社会的リスクのおそれのある資金提供を防ぐため、以下のガイダンスが含まれています。

- 設備が「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法改正法」⁶に基づいて策定された、「事業計画策定ガイドライン(太陽光発電)」⁷及び再生可能エネルギー固定価格買取制度⁸を遵守していること。これら法令は、土地及び環境評価など環境保全のために必要な措置についてガイダンスを示すものです。

3.3 調達資金の管理

当該グリーンボンドによる調達資金の全額は、財務部が充当と管理を行います。財務部は四半期に1度、内部の管理ファイルを使って全適格グリーンプロジェクトの予算と実支出をチェックします。さらに当該グリーンボンドの調達資金が適格グリーンプロジェクトへの融資に充当されるまでの間、調達資金は現金または現金等価物に一時的に投資されます。

3.4 レポーティング

資金充当状況レポーティング

当該グリーンボンドの残存期間中、調達資金の全額が適格グリーンプロジェクトへの融資に充当されるまで、三菱 UFJ リースは年1回、同社ウェブサイト上で当該グリーンボンドの調達資金の充当状況についてのレポーティングを行います。同ボンドについてのレポーティング内容には、機密性を考慮しつつ、グリーンボンドの調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細説明を含みます。

インパクト・レポーティング

三菱 UFJ リースは年1回、同社ウェブサイト上でインパクト・レポーティングを開示すると約束しており、以下の指標が含まれる予定です。

- 適格グリーンプロジェクトによって削減された CO₂ 排出量(出力規格に基づく理論値)
- 適格グリーンプロジェクトによって発電された発電量(出力規格に基づく理論値)

⁵ 三菱 UFJ リース Corporate Report 2017 (和文) : http://www.lf.mufig.jp/pdf/investors/cr_jp_2017.pdf

⁶ 再生可能エネルギー (和文)、資源エネルギー庁: http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/fit_legal.html

⁷ 事業計画策定ガイドライン (和文)、資源エネルギー庁:
http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/dl/fit_2017/legal/guideline_sun.pdf

⁸ 「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法の一部を改正する法律」概要 (和文)、経済産業省:
<http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160603009/20160603009.html>

3.5 コンプライアンス・レビュー

三菱 UFJ リースは当該グリーンボンドの発行日から 1 年を経過する前に、融資が三菱 UFJ リースのグリーンボンドのフレームワークに適合しているかを評価するためにサステナリティクスとレビュー契約を結びます。このレビューは三菱 UFJ リースのグリーンボンドによる調達資金の全額が充当されるまで年 1 回行われます。サステナリティクスはレビューについてのレポートを作成し、三菱 UFJ リースはこれを同社のウェブサイト公表します。万一この年次レビューによって、三菱 UFJ リースのグリーンボンドの適格クライテリアに適合しない活動に調達資金が充当されていることが判明した場合、三菱 UFJ リースは該当する資金を、三菱 UFJ リースのグリーンボンドの適格クライテリアに適合する別の融資活動に再充当します。

サステナリティクスのオピニオン

セクション 1: 三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークに対するサステナリティクスのオピニオン

概要

サステナリティクスは、三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークには総合的に見て透明性があり、有意義なインパクトを生み出し、グリーンボンド原則 2017 にも合致しているとのオピニオンを表明します。サステナリティクスが主に考慮したのは以下のような要素です。

- 当該グリーンボンドの適格クライテリアである、再生可能エネルギーは ICMA のグリーンボンド原則において明確な環境改善効果を生み出すプロジェクトとして認められています。
- サステナリティクスは、本フレームワークに記載の調達資金管理及びプロジェクト選定のプロセスがマーケット・プラクティスに沿ったものであると判断します。
- 三菱 UFJ リースは、適格グリーンプロジェクトによる発電量に加えて CO₂ 排出量の削減量をインパクトの指標として公表すると約束しており、これはマーケット・プラクティスに合致しています。

グリーンボンド原則 2017 への適合性:

サステナリティクスは、三菱 UFJ リースのグリーンボンドがグリーンボンド原則 2017 の 4 つの柱に適合していると判断しました。詳細については「参考資料 B: グリーンボンド/グリーンボンド・プログラム 外部機関レビューフォーム」をご覧ください。

セクション 2: 発行体のサステナビリティ戦略

フレームワークによる発行体のサステナビリティ戦略への貢献

サステナリティクスは、三菱 UFJ リースの環境方針、環境関連の商品・サービス、2017 年度から 3 年間の中期経営計画の内容を考慮し、同社のグリーンボンドフレームワークが同社のサステナビリティ戦略への取組み姿勢と齟齬がないものであると確信しています。

また、サステナリティクスは、三菱 UFJ リースの環境面での取り組みの強みは、同社の環境方針と経営計画に基づいているとのオピニオンを表明します。三菱 UFJ リースでは、太陽光など再生可能エネルギー設備の開発によって環境へのインパクトを生み出す企業への融資取り組みに特に重点を置いています。これは同社の中期経営計画において環境・エネルギー事業の目標のひとつとなっています⁹。さらに三菱 UFJ リースは環境・エネルギー事業の成長目標を公表し、2019 年度には 2016 年度比 10 億円の当期純利益拡大を目指すとしています。サステナリティクスは、数値目標の公表は同社が成果を出すことに重点を置いていると示唆するものであるとオピニオンを表明します。

以上を考慮した上でサステナリティクスは、発行体である三菱 UFJ リースにはグリーンボンドを発行するに十分な体制が整っており、三菱 UFJ リースのグリーンボンドは同社のサステナビリティに関する目標や取り組みに貢献するものと判断します。

⁹ 三菱 UFJ リース 新中期経営計画 “Breakthrough for the Next Decade” (和文) : http://www.lf.mufg.jp/investors/library/pressrelease/20170515_3.pdf

プロジェクトに伴う環境・社会的リスクに対処する体制整備

太陽光発電設備の開発には、意図しない土地の劣化、汚染、近隣住民へのネガティブな影響など環境リスク、社会的リスクが生じるおそれがあります。三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークは、同社が財務的リスクの評価と同時に非財務的リスクの評価も行うと定めています。これらのプロセスによって、法令で義務づけられている場合の環境影響評価の実施、地元住民の理解が確保されており、これは環境リスクと一部社会的リスクの低減に貢献します。さらに融資対象企業は契約書上において、改正された固定価格買取制度及び「事業計画策定ガイドライン(太陽光発電)」を含む法令を確実に遵守することを表明しており、これら制度・ガイドラインには発電事業者に対する環境保全関連法令などの遵守項目が細かく規定されています。サステナリティクスでは固定価格買取制度及び「事業計画策定ガイドライン(太陽光発電)」の要件について評価を行い、三菱 UFJ リースが契約書によって発電事業者が改正された固定価格買取制度及び「ガイドライン」などの関連法令を遵守させるプロセスが、環境リスク及び社会的リスクを低減するに十分であると結論に達しました。これらのプロセスによって、プロジェクトの融資対象企業は環境及び社会面での関連法令を遵守するとともに、環境リスクの可能性の特定と低減を行える十分な体制を整えることになり、三菱 UFJ リースの潜在的な法的責任を軽減しているとサステナリティクスでは確信しています。実施された環境・社会面での評価の詳細とサステナリティクスの評価については参考資料 A をご覧ください。

セクション 3: 調達資金の用途によるインパクト

日本における太陽光発電のインパクト

日本は、国内資源が乏しく石油・石炭・天然ガス(LNG)など天然資源において世界でも大きく輸入している国であり¹⁰、国内需要を満たすためにエネルギーの輸入に依存しています。さらに 2011 年の東日本大震災までは、日本は天然資源に加え原子力に大きく依存しており、1973 年以来その開発は国の戦略的目標となっていました¹¹。しかしながら、大震災とそれに続く福島第一原子力発電所の事故によってこの方針は見直され、2015 年には政府により 2030 年時点までの新たなエネルギー基本計画¹²が策定されました。これによって原子力エネルギーの比率が 2010 年の 28%から 2030 年時点で 20 - 22%まで減らされるとともに、エネルギー自給率の向上と CO2 排出量の削減のため再生可能エネルギーの比率目標が震災前の 1.1%から 2030 年時点で 22-24%へと増加しました¹³。計画では 2030 年時点で太陽光発電の比率を 7% とするとしており、これは全再生可能エネルギーの中で 2 番目に高い比率となっています(他は水力が 8.8 から 9.2%、バイオマスが 3.7 から 4.6%、風力が 1.7%、地熱が 1.0 から 1.1%)。日本国内では、太陽光発電について、再生可能エネルギー源の中で依存度が高すぎることで、発電電力買取価格が引き下げられたことなど懸念が出ていますが¹⁴、太陽光発電は日本における天然資源依存率と温室効果ガスの削減に資することから、長期的なエネルギー計画においても太陽光発電は信頼できるエネルギー源のひとつとされています。このような背景から太陽光発電には、日本のエネルギー需要に応える発電を行い、2030 年のエネルギー見通しに向けての政府の戦略を実現する上で、環境的に有意義な影響を与えます。

¹⁰ Country Analysis Brief: Japan (英文)、U.S. Energy Information Administration: http://www.iberglobal.com/files/2017/japon_eia.pdf

¹¹ Nuclear Power in Japan (英文)、World Nuclear Association: <http://www.world-nuclear.org/information-library/country-profiles/countries-g-n/japan-nuclear-power.aspx>

¹² 長期エネルギー需給見通し (和文)、経済産業省: http://www.meti.go.jp/press/2015/07/20150716004/20150716004_2.pdf

¹³ 日本のエネルギー (和文)、経済産業省 資源エネルギー庁: http://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/pdf/energy_in_japan2016.pdf

¹⁴ Balance of power: Shift toward renewable energy appears to be picking up steam (英文)、the Japan Times:

<https://www.japantimes.co.jp/news/2017/10/14/business/balance-power-shift-toward-renewable-energy-appears-picking-steam/#.WmGRV6iWaUk>

「持続可能な開発目標」(SDGs)との一致

「持続可能な開発目標」(SDGs)は 2015 年 9 月に策定され、2030 年までに持続可能な開発を実現する政治的目標となっています。本グリーンボンドは以下の SDG 目標を推進するものです。

調達資金の用途カテゴリー	SDG	SDG 目標
再生可能エネルギー	7. 安価でクリーンなエネルギー	7.2 2030 年までに世界全体のエネルギー構成において再生可能エネルギーの比率を大幅に高める

結論

三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークは、透明性があり、資金の用途において再生可能エネルギーの発電、温室効果ガス排出量の削減、そして貴重な天然資源への依存度低下に貢献することを明確に示しています。サステナビリティクスは、また必要な社会的・環境的影響の考慮について評価を行い、同社には環境と社会へのネガティブな影響に対処する十分なプロセスが備わっていると考えています。さらに調達資金の管理とプロジェクト選定のプロセスもマーケット・プラクティスに合致しています。サステナビリティクスは、三菱 UFJ リースのグリーンボンドフレームワークがグリーンボンド原則 2017 とその 4 つの柱に準拠し、信頼性高く強固なものであることからフレームワークに肯定的な見解を示すオピニオンを表明します。

参考資料

参考資料 A: 三菱 UFJ リースがクライアント(発電事業者)に求める要件の概要とその評価

<p>背景</p>	<p>三菱 UFJ リースはそのクライアント(発電事業者)に対して、関連プロジェクトが関連法令を遵守していることを確認するよう契約で義務づけており、これには「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法改正法」¹⁵に基づいて策定された再生可能エネルギー固定価格買取制度及び「事業計画策定ガイドライン(太陽光発電)」¹⁶による義務づけが含まれています。</p>
<p>評価の対象</p>	<p>「事業計画策定ガイドライン(太陽光発電)」は適切な再生可能エネルギー発電事業を確保するために策定されたもので、太陽光発電事業者に要件として義務づけられる、または推奨される項目を詳述しています。同ガイドラインは設備の企画立案、設計、施工、運用／管理、撤去の各プロセスについてガイダンスを述べるほか、固定価格買取制度における要件のリストを挙げています。</p> <p>同ガイドラインに挙げられている環境・社会面での関連評価事項(義務・推奨の両方がある)にはたとえば以下のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • (固定価格買取制度における義務)再生可能エネルギー発電プロジェクトの実施や設備の処分において関連法令(条例を含む)の規定を遵守すること。関連法令には、景観法、自然環境保全法、森林法、絶滅のおそれがある野生動植物の種の保存に関する法律、騒音規制法、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、廃棄物の処理と清掃に関する法律、文化財保護法など挙げられる。 • (推奨) 関連法令に従い、土地及び周辺環境の調査を行うこと。関連法令には、水資源や植生の保護、希少生物種の保護など挙げられる。 • (義務) 地元自治体の条例で義務づけられている場合、環境影響評価または関連文書を提出すること。 • (推奨) 環境保全の観点から適切な土地の選定、開発計画の策定を行うこと。 • (推奨) 事業の概要や環境・景観への影響を説明する説明会の開催によって地域住民から理解を得ること。 • (推奨) 環境保全を考慮した適切な土地開発を行うこと。たとえば水源の水の濁り防止など。 • (推奨) 環境保全を考慮した発電設備の設計を行うこと。 • (推奨) 設計施工において、設備の稼働音が地域住民および周辺環境に影響を及ぼすことがないよう、適切な措置を講ずること。 • (推奨) 防災、設備安全、環境保全、景観保全のための対策が、計画どおり適切に実施されていることを随時確認すること。 • (推奨) 企画策定段階で予期しなかった問題が発生した場合、適切な対策を講じ、災害防止や自然環境において近隣への配慮を行うこと。 • (義務) 建設リサイクル法に基づき、再資源化を行い、また廃棄物処理法上の排出事業者の義務づけを遵守すること。
<p>サステナビリティクスの見解</p>	<p>「事業計画策定ガイドライン」に挙げられた項目のほとんどは推奨事項ですが、サステナビリティクスは、固定価格買取制度と同ガイドラインが、発電事業者に対して環境及び社会関連の法律(さらに自治体の条例で義務づけられている場合は環境影響評価も)の遵守を確保させるための要件を網羅していると判断します。サステナビリティクスでは、融資対象の発電事業者が同ガイドラインを遵守することで、プロジェクトに伴う一般的な環境リスク、社会的リスクに対処するための十分なデューデリジェンスを果たすことになると考えています。</p>

¹⁵ 再生可能エネルギー (和文)、資源エネルギー庁: http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/fit_legal.html

¹⁶ 事業計画策定ガイドライン (和文)、資源エネルギー庁:

http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/dl/fit_2017/legal/guideline_sun.pdf

参考資料 B: グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム

外部機関レビューフォーム

グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム外部機関レビューフォーム

セクション 1. 基本情報

発行体の名称:	三菱 UFJ リース
グリーンボンド ISIN コードまたは発行体 グリーンボンドフレームワークの名称(該当する場合)	
レビュー機関の名称:	サステイナリティクス
このフォームの記入完了日:	2018 年 3 月 16 日
レビュー発行日:[場合によりそれが更新版であること、以前のレビューへの参照情報を記載する]	2018 年 4 月 2 日

セクション 2. レビューの概要

レビューの範囲

レビューの範囲のまとめとして以下を(場合により修正して)使用のこと。

レビューでは次の要素を評価し、GBP との整合性を確認しました。

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価及び選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

レビュー機関の役割

- | | |
|--|---------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルティング(セカンドオピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> レーティング |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入): | |

注意: 複数のレビューまたは複数のレビュー機関がある場合、各レビューについて別のフォームを使ってください。

レビューの概要またはレビュー全文へのリンク(該当する場合)

上記のグリーンボンドフレームワークとセカンドオピニオンを参照してください。

セクション 3. レビューの詳細

レビュー機関は可能な範囲内で以下の情報を提供し、コメント部分を使ってレビューの範囲について説明してください。

1. 調達資金の使途

セクションについての総合的コメント(該当する場合):

サステナリティクスは、三菱 UFJ リースの述べる調達資金の使途がグリーンボンド原則 2017 において適格と認められており、日本の状況において明確な環境改善効果を持つとのオピニオンを表明します。ボンドの調達資金は太陽光発電プロジェクトへのリファイナンスに使用される予定です。

資金の使途のカテゴリー(分類は GBP に基づく):

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> 省エネルギー |
| <input type="checkbox"/> 汚染の防止と管理 | <input type="checkbox"/> 自然資源と土地利用の持続可能な管理 |
| <input type="checkbox"/> 生物多様性保存(陸上及び海洋) | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 環境や循環型経済に配慮した製品、製造技術、プロセス | <input type="checkbox"/> グリーン建築 |
| <input type="checkbox"/> 債券発行時点では確認されていないが今後 GBP のカテゴリーに適合すると予想される分野、または GBP のカテゴリーになっていないその他の適格分野 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入): |

GBP のカテゴリーにない場合は、環境分類を記入してください(可能な場合):

2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

セクションについての総合的コメント(該当する場合):

調達資金を利用したリファイナンスの対象となるプロジェクトは、三菱 UFJ リースの営業部門および環境・エネルギー事業部門の各担当者により財務的評価を実施し、プロジェクトの金額に応じて部店長から取締役会までの承認者が最終決定を下しています。プロジェクトは今後、環境・エネルギー事業部門によって適格クライテリアへの適合を検討し、評価と選定が行われる予定です。

サステナリティクスは以上のプロセスを考慮して、これがマーケット・プラクティスに合致しているとのオピニオンを表明します。

評価と選定

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境持続性(サステナビリティ)に関する目標の実績 | <input checked="" type="checkbox"/> 定義されたカテゴリーに対するプロジェクトの適合を判断する文書化されたプロセスがある |
| <input type="checkbox"/> グリーンボンドによる調達資金充当に適切なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている | <input type="checkbox"/> プロジェクトに関連した ESG リスクの可能性を特定し管理する文書化されたプロセスがある |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入) : |

責任に関する情報

- | | |
|---|----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 評価/選定のクライテリアについて外部機関による助言または検証がある | <input type="checkbox"/> 組織内での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入) : | |

3. 調達資金の管理

セクションについての総合的コメント(該当する場合):

当該グリーンボンドによる調達資金の全額は、財務部が充当と管理を行います。財務部は四半期に1度、内部の管理ファイルを使って全適格グリーンプロジェクトの予算と実支出をチェックします。さらに当該グリーンボンドの調達資金が適格グリーンプロジェクトへの融資に充当されるまでの間、調達資金は現金または現金等価物に一時的に投資されます。

サステナリティクスは、これがマーケット・プラクティスに合致しているとのオピニオンを表明します。

調達資金の追跡管理:

- | |
|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体はグリーンボンドの調達資金を適切に区別または追跡管理している |
| <input type="checkbox"/> 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入) : |

その他の情報開示:

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 将来の投資にのみ充当 | <input type="checkbox"/> 現在と将来の投資に充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> 支出ポートフォリオに充当 |

- 未充当資金のポートフォリオを開示 その他(具体的に記入): 現在の投資のリファイナンスにのみ充当

4. レポーティング

セクションについての総合的コメント(該当する場合):

資金充当状況レポーティング

当該グリーンボンドの残存期間中、調達資金の全額が適格グリーンプロジェクトへの融資に充当されるまで、三菱UFJリースは年1回、同社ウェブサイト上で当該グリーンボンドの調達資金の充当状況についてのレポーティングを行います。同ボンドについてのレポーティング内容には、機密性を考慮しつつ、グリーンボンドの調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細説明を含みます。

インパクト・レポーティング

三菱UFJリースは年1回、同社ウェブサイト上でインパクト・レポーティングを開示すると約束しています。これには以下のパフォーマンス指標が含まれる予定です。

- ・ 適格グリーンプロジェクトによって削減されたCO2排出量(出力基準の理論値)
- ・ 適格グリーンプロジェクトによって発電された発電量(出力基準の理論値)

サステナリティクスは、このレポーティングがマーケット・プラクティスに合致しているとのオピニオンを表明します。

資金充当状況レポーティング:

- プロジェクト単位 プロジェクト・ポートフォリオ単位
- 個々の債券の情報源へのリンク その他(具体的に記入):

報告される情報:

- 充当額 投資額全体におけるグリーンボンド調達額の割合
- その他(具体的に記入):

頻度:

- 毎年 半年毎
- その他(具体的に記入):

インパクトレポーティング:

- プロジェクト単位 プロジェクト・ポートフォリオ単位
- 個々の債券の情報源へのリンク その他(具体的に記入):

頻度:

- 毎年 半年毎

その他(具体的に記入) :

報告される情報(予想または事後):

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 温室効果ガスの排出量／削減量 | <input type="checkbox"/> 消費エネルギーの削減量 |
| <input type="checkbox"/> 水使用の削減量 | <input type="checkbox"/> その他の ESG 指標(具体的に記入): |

開示の方法

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に記載 | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートに記載 |
| <input type="checkbox"/> アドホックの報告書に記載 | <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に記入): 同社ウェブサイト |
| <input type="checkbox"/> レポーティングは審査済み(イエスの場合、どの部分が外部審査の対象かを記入): | |

下の「参考情報へのリンク先」の欄に報告書の名称と発行日を記入のこと(該当する場合)。

参考情報へのリンク先(たとえばレビュー機関の手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク)

参照可能なその他の外部審査(該当する場合)

提供されたレビューの種類:

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> コンサルティング(セカンドオピニオンを含む) | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証／監査 | <input type="checkbox"/> レーティング(格付け) |
| <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入): | |

レビュー機関:

発行日:

グリーンボンド原則(GBP)が定義するレビュー機関の役割について

- i. コンサルタント・レビュー: 発行体は、環境的な持続可能性、その他グリーンボンド発行におけるさまざまな面(発行体のグリーンボンドフレームワークの策定／レビューなど)について、定評ある専門知識を備えたコンサルタントや専門機関に助言を求めることができます。「セカンドオピニオン」はこのカテゴリーに含まれます。
- ii. 検証: 発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、または裏付けとなる資産について、資格要件を満たした当事者(監査人など)に独立した立場からの検証を受けることができます。以下の認証と異なり、検証では発行体で作成した内部基準や要件との整合性に焦点を当てることができます。裏付けとなる資産の環境的に持続可能な特性の評価も検証と呼び、外部のクライテリアを適用する場合があります。
- iii. 認証: 発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンド・フレームワーク、または調達資金の用途について、外部のグリーン評価基準に照らして認証を受けることができます。クライテリアは評価基準によって定義され、こうしたクライテリアとの整合性を、資格要件を満たした第三者機関／認証機関が確認します。
- iv. レーティング(格付け): 発行体は、発行するグリーンボンド、またはそれに関連するグリーンボンドフレームワークのレーティングを、資格要件を満たした第三者機関(専門的調査機関、格付機関など)から取得することができます。グリーンボンドのレーティングは通常、個別の債券やグリーンボンドフレームワーク／プログラムに適用されるもので、発行体の ESG レーティングとは別です。

免責事項

All rights reserved. このセカンドパーティ・オピニオン(以下『オピニオン』)のいかなる部分も、形式・手段を問わず、サステナリティクスによる事前の許可がない限り複写・転載・公開することはできません。

『オピニオン』は、分析対象の債券が持続可能かつ責任あるものだと考えられる理由を述べるために作成されました。したがって本『オピニオン』は情報提供のみを目的とするものであり、サステナリティクスは『オピニオン』の内容についてのいかなる形の賠償責任も、『オピニオン』やそこに含まれる情報の利用に起因する損害に関する賠償責任も認めることはありません。

『オピニオン』はクライアントから提供された情報に基づいて作成されているため、サステナリティクスは本『オピニオン』に提示された情報の完全性・正確性・最新性を保証しません。

本『オピニオン』に記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、企業への投資の可否、または投資可能ユニバース／ポートフォリオへの組み入れの可否についての表明や保証とみなすことはできません。さらに本『オピニオン』はいかなる場合も、債券の経済的パフォーマンスや信用力の評価と解釈することはできず、また債券による調達資金の効果的な充当を扱ったものと解釈することもできません。

クライアントは自らの行動の適法性・実行・監視について、認証の取得や確実な実施の全責任を負います。

サステナリティクスについて

サステナリティクスは、ESG とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付け・分析を行う独立系機関であり、責任投資(RI)戦略の開発と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステナリティクスは世界各地に 13 のオフィスを有し、環境・社会・ガバナンスに関する情報と調査を投資プロセスに組み込む機関投資家のパートナーです。今日、サステナリティクスの社員数は 300 名を超え、うち 170 名のアナリスト陣が 40 以上のセクターについて多分野にわたる専門知識を持っています。IRR の調査では投資家たちが、2012 年から 2014 年の 3 年連続で責任投資(RI)に関する最も優れた独立系調査機関にサステナリティクスを選びました。また 2015 年には ESG 調査とコーポレート・ガバナンス調査の両方について上位 3 社に選ばれました。サステナリティクスはまた、[金融・債券に関する情報サービス企業] GlobalCapital 社から最も優れた責任投資(SRI)／グリーンボンド調査会社に選ばれています。詳しくは www.sustainalytics.com をご参照いただくか、info@sustainalytics.com までお問い合わせください。

